1853（嘉永6年）－1952（昭和27年）

世の中の出来事

- 1853 嘉永6年　ペリーが浦賀に来航
- 1854 安政元年 嘉永7年　日米和親条約締結
- 1858 安政5年　欧米5か国と修好通商条約締結（→P.38）
- 1859 安政6年　箱館（函館）・横浜・長崎が開港、運上所設置（→P.80, P.84, P.94）
- 1866 慶応2年　改税約書締結（→P.38）
- 1867 慶応3年　川口（大阪）運上所設置（→P.88）江戸運上所設置（→P.82）
- 1868 明治元年 慶応4年　戊辰戦争開戦
- 1869 明治2年　新潟運上所設置（→P.130）
- 1872 明治5年　全国の運上所を「税関」に呼称統一（税関発足）
- 1877 明治10年　大蔵省に関税局を設置（→P.101）
- 1886 明治19年　税関官制制定
- 1890 明治23年　税関法・税関規則施行
- 1892 明治25年　税関旗制定
- 1894 明治27年　日清戦争開戦　改正日英通商航海条約締結（明治32年施行）
- 1897 明治30年　税関官制全部改正　保税倉庫法施行
- 1899 明治32年　関税定率法・関税法・噸税法施行（→P.34, P.39）
- 1901 明治34年　税関貨物取扱人法施行
- 1904 明治37年　日露戦争開戦
- 1902 明治35年　新潟税関廃止（→P.131）
- 1909 明治42年　門司税関設置（長崎税関から独立）（→P.92）
- 1911 明治44年　関税定率法（全部改正）施行（→P.39）　改正日米通商航海条約締結
- 1912 大正元年 明治45年　仮置場法制定
- 1914 大正3年　第一次世界大戦勃発
- 1923 大正12年　関東大震災発生
- 1927 昭和2年　金融恐慌発生
- 1937 昭和12年　日中戦争開戦
- 1939 昭和14年　第二次世界大戦勃発
- 1941 昭和16年　太平洋戦争開戦
- 1943 昭和18年　税関官制廃止、税関業務は海運局に移管
- 1945 昭和20年　終戦　横浜税関本庁舎が連合国軍総司令部（GHQ）として接収される（→P.85）
- 1946 昭和21年　日本国憲法公布　税関官制公布、税関再開（横浜・神戸・大阪・名古屋・門司・函館税関設置）
- 1947 昭和22年　制限付きで民間貿易が再開
- 1949 昭和24年　外国為替及び外国貿易管理法公布　民間輸出貿易が再開（制限なし）
- 1950 昭和25年　民間輸入貿易が再開（制限なし）
- 1951 昭和26年　関税定率法税率改正
- 1952 昭和27年　羽田空港開港　日本税関の歌完成（→P.24）

（注）改暦以前の出来事は、西暦に基づき記載しています。

ペリー提督
（出典：メトロポリタン美術館）

伝 ペーター・ペルンハルト・ヴィルヘルム・ハイネ
ペリー提督横浜上陸の図
（横浜美術館蔵（原範行氏・原會津子氏寄贈））

関東大震災により倒壊した横浜税関
（税関表門「横浜震災被害写真帖」
横浜市中央図書館所蔵）

開館当時の羽田空港ターミナル
（提供：日本空港ビルデング株式会社）

当時の税関職員（1918年頃）

全国初の女性検査官
（大正時代）

密輸されたアヘン
（昭和初期）

職務質問の様子
（1952年）

税関に関する出来事

税関発足

明治5年11月28日（1872年）、「運上所」から「税関」に呼称が統一され、現在の税関制度が始まりました。

欧米5か国との修好通商条約の締結により、関税自主権を喪失するなど日本は関税政策において大変な重荷と苦痛を抱え続けました。

明治後期の関税自主権の回復により関税収入の確保及び海外貿易における日本の産業保護が可能となりました。

明治時代の経済発展に伴い、貿易量は増加の一途をたどり、それとともに関税関連法規の整備と税関の行政機能を充実していきました。

時代は昭和へと移り、第二次世界大戦が勃発すると、税関にとっての混乱期を迎えることとなりました。税関は戦争の影響により一旦はその歴史に幕を閉じることとなりましたが、戦争の終結、外国貿易の復興により、税関は3年ぶりに再開し、貿易の発展とともに歩み続けていくことになります。

江戸運上所　錦絵
「東都名所 鉄砲州明石橋之景」

箱館（函館）運上所

運上所の役割

税関の前身である運上所は、船舶の入出港及び輸出入貨物の積卸しに関する手続、輸出入税の徴収といった業務のほか、開港地における外交事務も取り扱っていました。

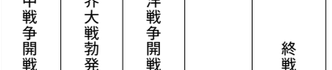
税関旗について

青い部分が海と空、白い部分が陸地、その接点にある赤い丸が税関を意味しています。
この税関旗は、明治25（1892）年8月3日に制定されました。

We are from Customs

「税関です」を意味し、我々税関職員がよく使う英語フレーズです。昔の英語辞書では「Customs」がどのように翻訳されていたのでしょうか。

- 慶応3年（1867年）出版
  和英語林集成（通称「ヘボン辞書」）
  ※日本最初の和英辞典
  著者：美国平文（J.C. Hepburn）編訳

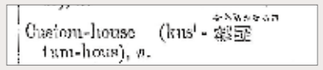


Custom-house, Unjōsho（運上所）と訳されていました。

- 明治2年（1869年）出版
  英華字典
  ※「附音挿図 英和字彙」の編集に利用されたとされる字典
  著者：W. Lobscheid編

Custom-houseの訳に「關（関）」や「税」の漢字が使われるようになりました。

- 明治6年（1873年）1月出版
  附音挿図　英和字彙
  著者：柴田昌吉、子安峻 編
  （日就社出版）



「税關（税関）」と訳されるようになりました。

出典：国立国会図書館

税関記念日

（出典：国立国会図書館）

明治5年11月28日（1872年）に「税関」に呼称が統一されたため、現在では、11月28日を「税関記念日」としています。
毎年、税関記念日には各税関で様々なイベントが行われています。
呼称統一には、井上馨氏（写真左）と渋沢栄一氏（写真右）が関わっていました。

税関ゆかりの地

旧新潟税関

旧門司税関

（写真左）明治2（1869）年に新潟運上所として建てられた旧新潟税関庁舎は、全国に現存する旧税関庁舎の中で最も古い建物であり、国の重要文化財に指定されています。（→130ページ）
（写真右）門司税関の2代目庁舎となる旧門司税関は、明治時代の赤レンガ建築として極めて優れた建物であったことから地域活性化事業の一つとして改修され、北九州市の観光スポットになっています。（→132ページ）